

令和元年 第3回佐倉路地裏探検隊
【上座・下志津地区】

令和元年9月11日（水）



佐倉路地裏探検隊

1. 上座について

手繰川西側の台地上に位置し、東の対岸は臼井台町、北は小竹村、西は井野村、村の中央北より東西を西を成田街道が、斜めには古佐倉道が走っています。慶長19年(1614)東金街道覚書帳(上座村、下志津村等からの人足手配について)にも村名が出てきます。江戸初期の葛飾郡のうち「寛文朱印留」では佐倉領として記されています。江戸末期の安政5年(1858)の佐倉藩領村高家数等覚書では戸数50という小さな村でした。明治22年の志津村(上志津、下志津、井野、井野町、小竹、青菅、先崎の中心地)の中心地として村役場を上座に起きました。明治29年には志津高等小学校(志津小学校。第一分校=上志津、第二分校=青菅)が上座に置かれ派出所、郵便局、道路元標も置かれました。

昭和20年過ぎ、佐倉町、酒々井町、臼井町、和田村、根郷村による佐倉市にすべく活動。酒々井町は成田町との統合を検討した為市になる為の人口3万人に達しませんでした。そこで当時阿蘇村(八千代市16号線ジョイフルの東側)と合併を検討していた志津村に打診。結果昭和29年3月佐倉市が誕生しました。現在の佐倉市立美術館の地に市役所を置きました

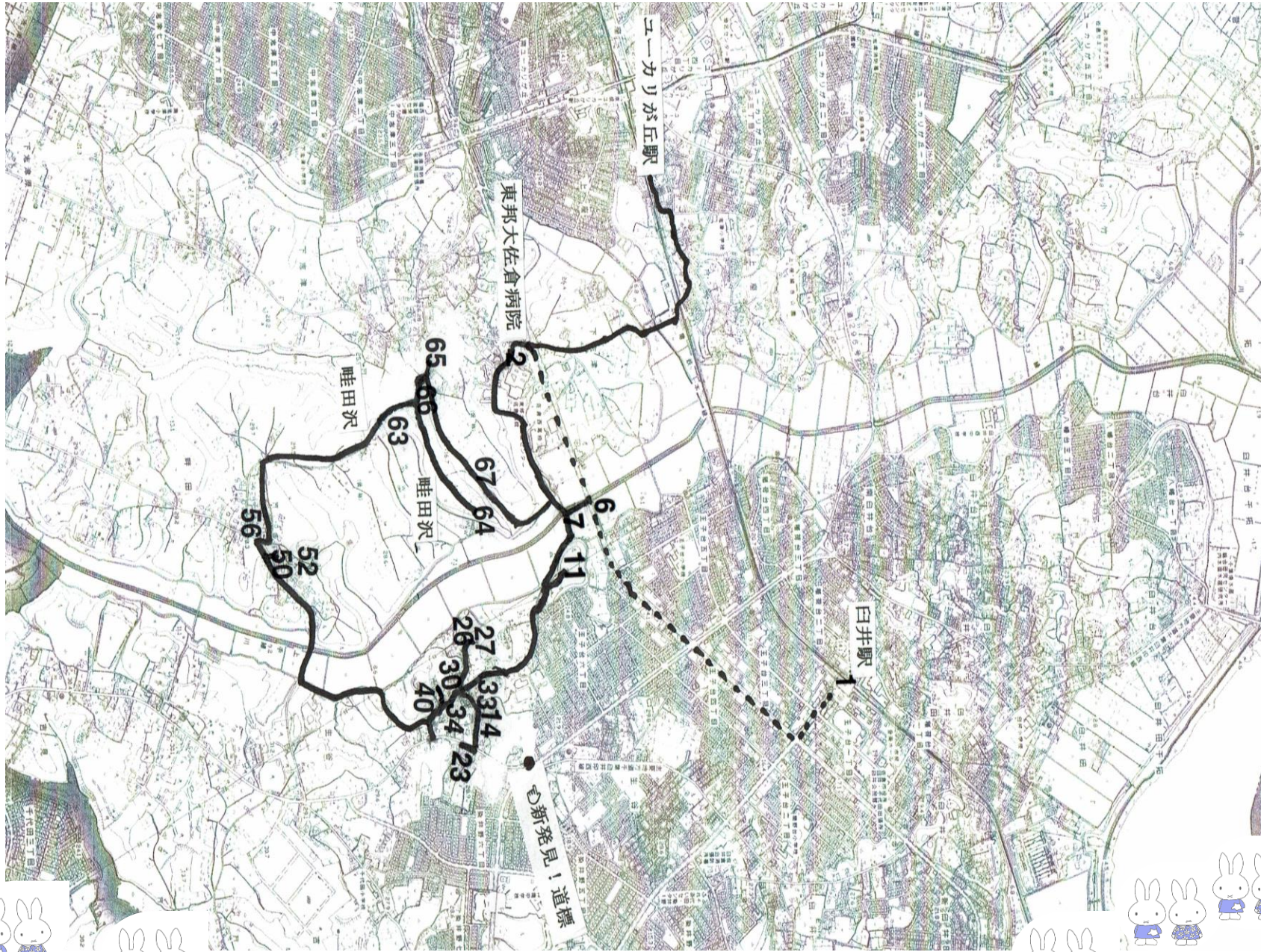
2. 下志津について

上志津村の東、手繰川西側の台地上に位置し、南は畦田村です。古くは上志津村と一つの村でした。慶長19年(1614)東金おなり街道覚書帳では上志津村として人足手配を命じています。元禄13年(1700)の下総国各村級分では下志津村と記されています。一時期青菅、上志津、下志津は旗本領でしたが、元禄14年(1701)以降は佐倉藩領になりました。推測ですが、元禄時代、幕府は新田開発を目的に青菅、上志津、下志津を旗本領にしました(青菅だけは陣屋を置きました)その後佐倉藩領にしました。上志津、下志津は勿論水田地帯もありますが、周辺は広大な畑地、山林があり佐倉藩の「火薬所」(洋式砲術高島流の砲術演習や試し打ち場)を明治6年明治政府に招聘されたフランスのルボン砲兵大尉と旧佐倉藩士大築尚志が築いた土手を拡大し南北3km、東西300mの射的場として砲術の伝習場としました。明治19年には陸軍砲兵射的學校をこの地に創立し、陸軍の練習場としました。上志津原下志津原周辺地帯は飲食業、宿家や軍隊関連品を納入する業者や工場が出来ました。一方本来の上志津、下志津は水田を中心とした農村地帯でした。

因みに中志津は山林地帯でしたが昭和40年以降の土地整備事業で新規住宅地として開発され、上下志津の中間地として新たに「中志津」という大字を作りました

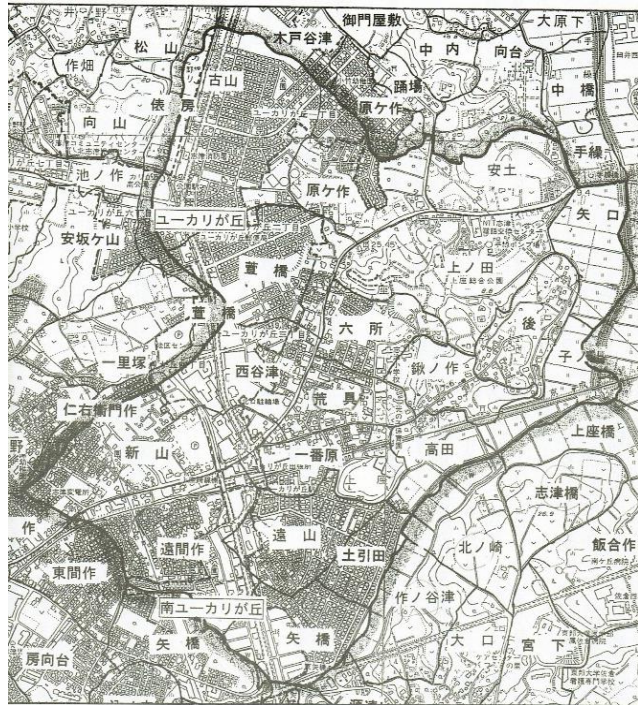


3. 上座・下志津地区探索マップ





上座全図



この地図は佐倉市発行の1万分の1基本図を使用したものである。



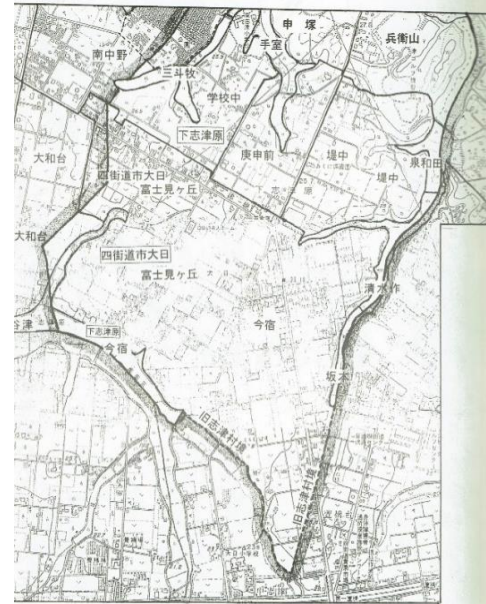
下志津全図 1



この地図は佐倉市発行の1万分の1基本図を使用したものである。



下志津全図 2



この地図は佐倉市発行の1万分の1基本図を使用したものである。



令和元年 第3回佐倉路地裏探検隊 上座・下志津地区協働探策

1	2	3	4
京成ユーカリ駅北口	斎藤家庚申塔	上座貝塚 (一部)	上座道祖神社
			
<p>北口のペDESTロデッキには2基の像があります。神戸市出身佐倉市在住の日展参与 久保浩氏作品です。平成10年作で女神は「水の耀き」男神は「森の耀き」と言います。久保氏は作品はJR佐倉西側通りの「風の姿」や市立体育館前の「西村勝三翁造」他多数あります。ユーカリが丘駅は昭和57年11月1日開業で南口や北口のペDESTロデッキはありませんでした。1階には本屋、薬屋、貴さってんな度がありました</p> 	<p>斎藤家敷地内にあります。元は隣接の塚の上にあります。1猿の更新塔は延宝3年(1675)造立で市内でも6番目に古い庚申塔です。一番古いも尾が先崎の地藏尊の庚申塔です1650)。斎藤家には他に慶応2年(1865)と造立年が不明の庚申塔もあります</p> 	<p>県指定の縄文早期の貝塚で直径60mに貝層が点列状にあります。現在でも地上にあらわれた貝層を見る事が出来ます。京成電鉄の軌道により分断されてしまいました。北側には住居跡が数軒発掘されました。南側には土器、竪穴式住居跡、炉穴と煙道部が発見されました。手繰川左岸の地上25mの台地上でマガキ、ハイガイが中心でハマグリ、アカニシ、オキシジミ等内湾性の貝が中心です</p> 	<p>上座集会所の敷地内にあります。堂の下には駒形状の道祖神が納められています。旅の安全, 家内安全、村の安全等等を祈願</p> 

5

社の下のだ道祖神



6

北辰大神



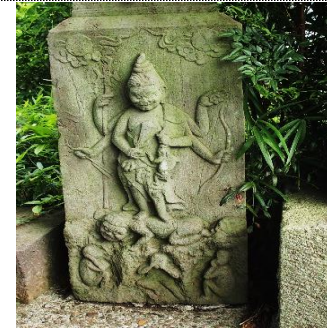
7

秀逸の庚申塔1



8

秀逸の庚申塔2



道祖神社の小さな社の下には地区内の人々が村の安全、家内安全等祈願し於いて行ったものです。形の決まったものが石屋で売られていたのでしょう。

社の後ろに北辰大神と刻像された石碑で、千葉一族を示す北斗七星である北辰を神格化したものです。この上座村に千葉市に關係した者が居た事の証です。

上座集会所の向いの塚の上に13基の庚申塔があります。その内2基は秀逸の刻像のものです。その内左側の像は、天保8年(1837)12月に造立され、傳兵衛、新兵衛の二人が施主です。台座には正面左右面にも關係した人達の名前が刻字。衣の流れ、邪鬼が仰向けになっています。三猿がありません。あつたものが欠落したのでしょうか。元々上部に笠があつたのですが、これも何らかの理由で外されています。

右側の刻像です。この像は手にもっている仏具やショケラ(女性)等6臂の手に握られています。月と太陽がありますが2羽の鶏が彫られていません。元文5年(1740)10月造立。上座村37名により造立されたもので、「奉造立二世安樂所」と刻時されています。村人の多くが死後の安樂を祈願して造立されたのが分かります。このような石仏は所有者が無く、文化財にもしていきされる事は珍しいので、風雨により摩耗・欠落したり盗難にあつたり最悪ゴミとshで処分されたりします。そのような事が無いよう市民が常々気を付けましょう。



9	10	11	12
坂の途中の民家の屋敷守	御嶽神社	坂（仮称高田坂）	悪戯された清滝大神
			
<p>昭和40年代頃には民家があったようです。その屋敷守ですが、いつの間にか立派なお社になっていました。通常なら稲荷神社ですが、祠の中を見ても分かりません。</p>	<p>坂をみる。くし見とらぬ。御嶽神社。意外と知られていません。季節になるとスズメバチに鉢合わせするかも。要注意です。2基の石碑は一つは御嶽神社、もう一つは大己貴命（おおみむらのみこと）・國常大命（くにのとおおみこと）・少彦名命（すくなびこのみこと）の三神で総本社は吉野金峰山寺蔵王権現堂であるが、明治時代の神仏分離時御嶽神社等と改称された</p>	<p>御嶽神社。季節になると時にスズメバチがいるかも？</p>	<p>辺日でも見えて塗られています。悪戯する人の気持ちが分かりません。</p>
			

13

水田への水



7月... 事。水が大量に流れ込んでいま
す。稲作でコストがかかるのが水
だそうです。苗、肥料、農機具等
も負担。人件費を含まずでぎりぎ
りです。買取米価も上がらずに稲
農家の皆様のご苦勞の割に割りが
合わないようです。



14

辺田道



殖産住宅の裏側はかつては、未だ
水田が広がっていて、手繰川の両
側は舗装された散歩道が続いてい
ました。いつの間にか、川は大き
なU字溝の川となり、大きな貯水
池が2ヶ所作られました。川沿い
の散歩道は途切れ、川沿いでなく
辺田道を歩く人を見かけるよう
になりました。



15

千元神社



線路際の急な階段を上ると、奥ま
った所に小さな社があります。千元
神社(浅間神社)です。祠の外に
も浅間神社と刻字された駒形の石
造があります。「ドウリ道了大権
現」の石造があります。(足柄氏
曹洞宗大雄山最乗寺の別称)や
階段近くには小御嶽石尊大権現
と刻字された石碑があります。大
山廻りでの富士山信仰です。



16

上座の馬頭観音群



ついつい見落とされがちなのが
上座地区の馬頭観音です。線路
近くの下志津ちくへの旧道脇に
12基あります。他に手繰不動尊
15基計27基あります。佐倉市
内にこれほど馬頭観音がある地
区はありません。さて、旧道沿
いの12基の内1基のみ刻像の物
があります。文化14年(1817)
10月造立のもので、衣に特徴が
あります。光背型のH62cm、W
24cm、D15cmです。それ以外
の造立年は大正、昭和と不明
(大正、昭和のものか?)と比
較的年代が新しいものです。



17

古道



18

屋敷守の弁天さま



19

子ノ権現（足腰守護神）



20

寶樹院参道



上座地区から線路際に下りる細い旧道沿いにあります。旧道は鉄道の軌道が出来ると共に忘れ去られ今では探すのも大変です。かつてはこの旧道沿いに忌み嫌われる戒名が彫られた墓石が1基ありましたが既にどこかに移されたようです。



ある人は成田街道と謂われている場所から旧道の入口の岩井家の屋敷守には、祠の中にへびがとぐるを見たものが祭られています。弁天様は古代インドでは、水神・農業神であった。鎌倉時代は芸能の紙とも謂われた。



地元でも歯の神様で痛い時にお参りした等と謂われていますが、本来は飯能市子ノ権現天竜寺。子ノ聖が延喜11年（911）に天竜寺を創建した名刹で、足腰守護の神様です。その寺院からの分祀になりますが、祠が小さく屋敷守にまちがいそうです。佐倉市内で、意外と子ノ権現を祀った神社は他にはないのではないのでしょうか？腰痛の皆様は是非この小さな社にお参りにお越し下さい。



宝樹院の参道は意外と間違われる方が多いです。現在の幹線道は左折すると上座公園・熊野神社入口の所でT字路になります。宝樹院の参道は此処を右折し途中を北に左折する道が本来の参道です。T字路から先は戦後の失対仕事で村民が鍬やもっこやリヤカー等で坂の下迄新道を切り開き現在の幹線になりました。



21

宝樹院門前二十三夜塔群



この二十三夜塔は元は2番にあった斎藤家の先の塚があり、その上にありました。尼が居住するお堂があり、その場に二十三夜塔が6基ありました。古い物は文政10年(1827)、天保13年(1842)、安政4年(1857)、そして明治、大正、昭和の造立です。尼堂が焼失、塚も無くなった後は熊野神社裏の熊野開館横に整理されていましたが、なぜかその地を追い出され現在の宝樹院山門の横にあります。境内には十九夜塔が2基あります。十九夜塔から二十三塔に移り変わったのが読み取れます。上座地区にも一時期十九夜講が盛んに行われ、その後何らかの理由で二十三夜講に移行しました。近辺の地区では大半が二十三夜講の様です



22

寶樹院と観音堂



臨済宗妙心寺派寺院で、開山は夢想国師、創立は文和二年(1353)、地藏菩薩がご本尊です。白井城主白井興胤が白井に圓應寺を開創した暦応元年(1338)と同時期に臨済宗建長寺派として宝樹院が創建された事になります。現在の本堂は昭和43年再建されましたが、本堂図面として天保5年(1834)文久3年(1863)の図面が残っています。観音堂は間口・奥行各三間で安永8年(1779)創立。本尊は観世音菩薩坐像、脇立は薬師如来立像と地藏菩薩立像を安置。観音堂の軒下の彫刻を見落とさなく



23

十九夜塔と上座の七軒屋墓域



観音堂の後ろ側に刻像3基あります。享保19年(1734)、享和2年(1802)、文化9年(1812)のもので、他地区の十九夜講塔を探すのも面白いものです。又観音堂の右奥には、上座村に古来住んでいた七軒のお墓が固まっております。岩井、中村(中郷)、花島、齊藤、三橋、入江、太田です。住まいも上座本村地区に住まれ、次男以下は分家し上座新田に住んでいます。成田街道から志津小学校入口迄を上座新田地区、それ以上奥は上座本村と言います。七軒の名前の方は古住民。それ以外の名前の方は外部から来られて方です。昭和50年頃には古くからおられた方と新規に入居された方との間には多少の差別感がありました。現在は新住民が多いのでそのような事はありませんが、寺社の氏子、檀家それぞれの役員は相変わらずです



24

小谷先生供養塔と西南戦争戦死供養塔



観音堂左側に小谷茂信翁碑があります。大正4年に遺弟達により建立されたものだが、明治3年上座村に私塾を開き子弟を教育。明治5年の学制公布により早々と廃塾しました。忠魂碑の右下に上座村出身者で太田四朗右衛門の三男の太田紋蔵は23歳で出征し、熊本県山鹿の戦場で亡くなりました。しかし何故か宮小路の麻賀多神社にある義烈の碑文には名前が刻字されていません。なぜでしょうか？農民出身だからでしょうか？



25

熊野神社



上座地区
神社が
庭先に
す。上座
なぎ）伊
年前の創
（毎月10月16日（最近の例は土曜
日）に盛大なお祀りがあり神輿や山車が出ます。
かつては子供が多かったのですが、最近は少なくな
りました。婦人会の人達が山車の前で踊られています。
約2~3千万円かかりますが個人の方の寄付。何
せ大きく重たいので成田街道には出れません。この
10年強はユーカーの方も参加され賑やかなお祀りに
なりました。



26

阿夫利神社



祭神は大山祇命（おおやまずみのみこと）。古くは水乞信仰の中心でした物を分祀されたものです。「富士に登らば大山に登るべし」と言われるように大山参りは盛ん遺行われました。7月27日が例祭です。



27

八坂神社



祭神（と）願疫病退散を願い「大王祭」として夏祭りが7月実施されます。熊野神社の祭り同様盛大に実施されます。樹佐地区は熊野神社と大王祭の2種類の祭りに神輿や山車が出ます。



28

北方熊野神社



組んだ仕事に失敗し、家屋も放棄・廃屋になり一時は幽霊がでるスポット迄になりました。元にあった場所から現在地に移転されました。移転当時には江戸時代末期の銅鑼がありました但现在はありません。何方が保管されているのでしょうか？境内には力石が数個置いてあります。



29	30	31	32
カメノコビヨウザカ 旧道の坂(仮称亀の子尾余坂)	亀の子尾余	上座公園 稲荷神社	上座公園 交通公園
			
<p>北方道祖神社方面から低地の市営プールに下る道はかつては熊野神社裏かr低地の水田に行く作場道です。余り知られていない道です。約60M、傾斜10度程です。</p> 	<p>上座地区には亀の子尾余と萱橋公園付近に枡尾余があったそうですがこちらはユーカリが丘土地開発時に整地され全く様子が分かりません。亀の子尾余はそれ程大きくない尾余です。市内に21ヶ所の尾余が小字として残っていますが、2ヶ所の尾余は小字にはありません。古豪が語っている尾余です。</p> 	<p>熊野神社が中心として、上座公園お入口手前右側の階段を登っていると稲荷神社があります。</p> 	<p>上座総合公園は昭和49年に計画され、水田等を買収し計画されました。志津地区の宅地化が上座地区にも広がり、志津と臼井の中間地として現在地に決定しました。昭和58年4月7日に全面開設されました。公園の奥の一角に交通公園があります。</p> 

33	34	35	36
旧道の坂（仮称上ノ田坂）	縁結神社&道祖神社	国道296号バイパスとの合流点	六所神社
			
<p>上座公園の交通公園の中のコンクリートの滑り台の裏付近に縁結神社に繋がる古道があります。一部階段になっています。約50m、傾斜12度</p> 	<p>すたじーの大木が根本から二枝に分かれているからでしょうか縁結神社と呼ばれています。隣に道祖神の石仏碑があります。本来は道祖神が祭られていたのでしょうか。その後スタジイの枝ぶりから見て縁結神社と呼ばれ定着したのでしょうか</p> 	<p>国道296号の交通量が増えて来た為に八千代台市の16号線を結ぶ動線を作るべき作られたが、八千代市側が未調整の為全面開通はいつのことやら分かりません。縁結神社付近で分岐されます、</p> 	<p>建築会社の作業場と民家の間の1m程度の参道を歩き右側。丁度作業場の一角に敷地があります。かつての参道は現在と反対側にあり現在のセブンイレブン側から参道が続いていました。六所とは六神の事で六つの神様を祀ったもので全国にあります。この上座の神様は全国同様に大國魂大神（おおくにたまのおおかみ） 天照皇大神（あまてらすすめのおおかみ）等が含まれているようですが、具体的には不明です</p> 

37

旧志津村中心地区



チスカウント酒屋のシモアール付近が旧志津村の中心街です。学校の一角に村役場があり、派出所、銀行、魚屋等がありました。学校の並びには現在も営んでおられる岩井商店がありました



岩井商店

38

旧志津村村役場跡&旧志津小跡



消防団の機器蔵付近にはかつても消防ポンプがありました。296合沿いの反対側には村役場がありました。理容店の手前までが一角で、奥行が広目の敷地です



旧志津小跡。正門の右側に村役場が

39

志津村道路元標



道路信号の電柱の下に志津村道路元標があります。明治6年12月太政官通達により各府県毎に里程元標を設ける事が命じられました。佐倉新町、臼井、根郷、弥富等村役場近辺に道路元標が残されています



かつての花屋のキノヤ、上の写真は元魚屋跡

40

岩田長兵衛 道標



成田山の信集構社内（こうは講でなく構と刻字）の江戸商人 岩田長兵衛は船橋市滝台1丁目、八千代市萱田町薬師寺裏横出口、佐倉市井野、同上座、酒々井町上岩橋の五か所に成田山巡拝塔兼道標を建立しております。恐らく未だ他地区にも巡拝塔を建立しているはずですが現段階では見つかっていません



41

高田屋の大紅葉跡



成田街道沿いの㈱エスアールハウジング（有）リフレッシュCP社の入口左側に碑文があります。「高田屋の大モミジ跡」と。幹回り3.5m、根回り10m、樹高12mで昭和27年11月県の指定文化財でしたが昭和50年枯れ死。昭和55年12月指定解除です。高田屋は近辺の農家用に農業資材他一般食料品（米うどん等）、燃料等を販売していました。



42

志津村記念碑



志津小学区校門を入って右側手前の碑文で志津村記念碑です。王政維新（明治維新の意）の時に佐倉県となり、その後印旛県、千葉県になった事。町村行政区画の事。志津村の戸数、人口、土地、官有地、国税金等の事、志津村の名前の謂れ、村役人数等等が刻字。明治26年1月20日造立。前村長奥津次郎が内容を纏め、吉野香雪が清書、石工広瀬音五郎が刻んだ碑文です。明治22年頃の志津村の状況を明確にしたものです。



43

志津村役場改築記念碑



「志津村記念碑」の後ろ側に今度は志津村役場改築記念碑があります。旧役場は木造茅葺40坪の平屋づくりで明治23年に築造され古くなったの改築費用を5年間積み立てし、民有地50歩を借受駐在所も併せ建築する事になった。大正8年10月竣工11月17日落成。2建物の総経費を書き込み改めて庁舎改築の記念碑を建てる事になった。文書は在原縫造、宇津木行蔵清書です。



44

下志津への旧坂
(仮称 仙元坂)

上座幹線から下志津への旧道です。この坂の入口左側には名主の御親戚の川村さん宅には上座に2つあった長屋門の一つがあった。坂の下左側には住宅地用石垣がありますが、貝層が層状にありました。京成電鉄の軌道の下をくぐって下志津村に行きます。江戸時代下志津は千石旗本川村清次郎氏が、上志津は上杉氏が、青菅いは川口氏が支配していました。

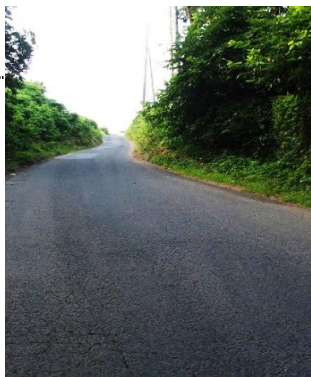


45

下志津への坂
(仮称 志津橋坂)



仙元坂を下り、京成電鉄の軌道の下を潜ると先に神楽葉遺跡への坂道が見えます。小字より志津橋坂と呼びます。長さ約150m。傾斜約9度程です。坂を上ると上志津の漬物会社の要地が両側に広がります。時に野兎や雉が居る事もあります。



46

神楽葉遺跡 踊り場



台地の上の右側お畑の真中に神楽葉遺跡の中心的な場所になるようです。小さな社もありますが、これは近代に造立されたものです。



寶樹院の梅林の梅の梅干し作業

47

Y字路の馬頭観音・道標



Y字路の畑の一角にあります。見落としてしまいます。

正面
右面
左面

文政6年(1823)
馬頭観世音
○○月
右 さくら道
左 上座道



48

神楽葉遺跡の中の道祖神 2 基



No47の石碑を臼井方面に少し行くと桜の大木の下に道祖神があります。少し場所がずれているのではと推測。恐らくこれもNo47と同場所にあったのではと考えます。Y字路共に旧道になります。更に直進し墓苑を超えて坂の右側にもう1基あります。



桜の木の下の社がある道祖伸

49	50	51	52
神楽場遺跡	東邦大学医療センター佐倉病院	下志津 庚申塔 1	下志津 庚申塔 2
			
<p>現在は綺麗に整備され神楽場遺跡の多くが公園墓になっています。かつては一面に畑で表面には石器の破片や黒曜石の破片がゴロゴロしていました。畑作業の邪魔者として処理されていました。その墓園の一角に神楽場4号墳が保存されています。広く神楽場遺跡は4千～2千6百年前の縄文中・後・晩年期、古墳中・後期の集落跡で縄文中期19軒、奈良・平安期1軒、土坑として縄文後期14基、奈良平安期2基と4号墳や石器が多数発見されました。これだけ大規模の遺跡ですから本来なら発掘物を展示する建物や説明書きがあってもよいのですが。佐倉市の文化財を保存する施策もない貧弱なものです。お粗末！！</p>	<p>東邦大学病院は東京都大田区の病院を拠点に目黒区の池尻大橋病院と佐倉の3病院を運営し、東邦大学医学部付属病院です。佐倉市近郊にはこの病院以外に、聖隷市民病院、日医大、日赤病院、国際医療福祉大付属病院（今年オープン）、成田飛行場近辺に開設予定、八千代市セントマレットを含め千葉市にも複数の総合病院があり、病院点億です。個々の病気によりこれら総合病院に診療を願いますが、その前に各人の掛かりつけ病院で必ず診察を受けて下さい</p>	<p>左側の庚申塔は元は笠付でした元文元年(1740)1月造立「です。市内の庚申塔ではこの年に造立されたものが意外と多いのに驚かされます。6臂にはそれぞれ仏具を持っています。衣はじみです。邪鬼は顔が上向き、禪が明確に分かります。三猿は左から右向き、右向き、左向き。右面には元文五庚年十一月日 右面7名左面7名の施主名が刻字されています。</p>	<p>右側庚申塔は元は笠付。6臂でそれぞれ仏具が。衣は少し凝ってはいませんが。正面を見たた邪鬼や三猿もすべて正面をみていますが全体に地味なものです。右面には寛政十二庚申十一月吉日(1800) 左面には下志津村 村中とあります。この地も庚申講は盛んに行われていたのでしょう。</p>
			

53	54	55	56
ルポン大尉の宿舎があった前原家焼夷弾の弾跡	春日神社本殿	春日神社の変な狛犬	大口館跡
			
<p>下志津の空襲(昭和20年2月19日)時冤罪の小田急ゴルフ練習場付近にあった高射砲からB29を落とすべく多数の砲弾が打たれましたが当りっこありません。飛行機のスPEEDと高射砲の砲弾のスPEEDが段違い。当然このスPEED差を計算して高射砲はうたれるのですが、多数の焼夷弾が落とされましたが、その一つがこの前原家の土蔵の軒先にあたりました。明治6年フランス砲兵大尉ルポンが政府の招へいで前原家を宿舎とし、毎日馬に乗り明治19年開校された陸軍砲兵射撃の学校に通っていました。四街道の大手手山にむけて砲弾を撃ち込んでいました。</p>	<p>祭神は天兒屋命(あめの子やねのみこと)で岩屋戸の前で太祝詞を奏で役でその声に天照大神も美声を愛でました。貞和5年(1349)8月15日創立(文政8年=1823再建。明治13年建替え)境内には八坂神社、子安神社、古峯神社、天満宮等があります。得意な物として八百稲荷神社は元は飛び地にありましたが、砲兵射撃の学校の拡張でこの地に移転されたもので戦争遺跡の一つになります、「八百稲荷」やお稲荷とは八百万の神々という意味です。四街道市の気前から松林並木を左に百m強行期左側に多くな八百稲荷神社があります。これを分祀したのか?</p>	<p>さすが神社の狛犬は全体が直線的な狛犬です。狛犬は拝殿前に左右一対で設置されています。邪鬼払いや神前を守護する為にあります。型式は願主よりの求めに応じ、作家如何で変わります。勿論予算に応じ材質もかわります、拝殿に向い右側が口をあけた「阿あ型」左側は口を閉じた「吽うん型」で「あうん」となっています。人間でいえば生死の意です。</p>	<p>春日神社を含め土塁が四方を取り囲んでいます。所謂大口館と謂われる場所です。志津城址はこちら側と強く主張されています。臼井城の支城で臼井氏の家臣が主が居住していたものです。報恩寺自身が主館跡ですが、春日神社も館に関連する建物があり土塁に囲まれていたのでしょう。</p>
 <p>クサギの花(実は藍色、片は赤)</p>			

57

ヤオイナリジンジャ
戦争遺跡の八百稲荷神社

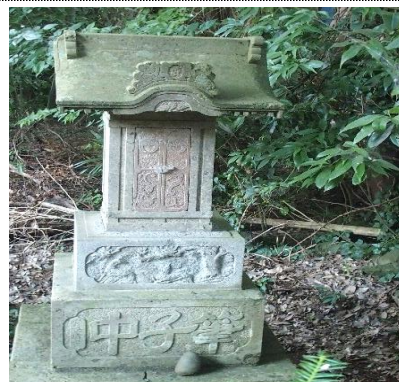


春日神社の本殿左奥にこの非があります。かつては飛び地にあった神社碑文ですが、陸軍砲兵射的学校の要地拡大に重内高尾神社内に移されました。これも戦争遺跡の一つになります。やおいなり神社です。八百万の神様をお祀りした稲荷神社です。意外と各地に同名の神社があります。四街道市の八百稲荷神社もその一つです



58

齋藤家天満宮の筆子中



春日神社の裏横の道路沿いに齋藤家の天満宮の石塔があります。その下部に「筆子中」とあります。齋藤塾として、承応2年(1653)創設。齋藤貞恭が神官に補職された際付近の男子子供に読書とそろばんを教えました。入学は男子20名を原則。入学金は2升で年齢は数え8歳、退学は13歳位です。修業年限や課業時間に制限はなし。月謝は正月、三月、五月にそれぞれ米2升です、



59

旧家の悲慘な状態



驚きました。倉もある旧家の窓ガラスのあちこちに嫌がらせを書いた白い紙です。一家は夜逃げされたのでしょうか？やり方が一杯あるのではないのでしょうか。このやり方ですべてが解決すると思っているのでしょうか？ここに至るまでに一家は弁護士など相談するやりかたがあったのでは。

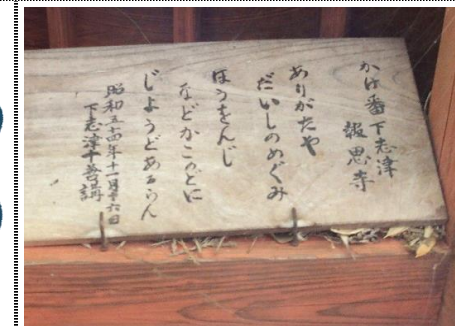


60

報恩寺の大師堂



報恩寺の大師堂です。外部が壁土の模様入りで面白い建物です。“かけばん＝掛番”ですので六崎鏡宝寺十善講の賭番です。



61	62	63	64
伊勢神宮・妙心寺参拝記念碑	報恩寺	薬師寺	坂 (仮称 <small>ヤクシジザカ</small> 薬師寺坂)
			
<p>この碑文に書かれた伊勢参りから京都妙心寺参りとお土産購入等刻字した旅行記は列車発車時刻まで書かれており面白い記念碑です。是非ご覧ください。</p>	<p>開山は上座の宝樹院同様夢窓国師。開基は志津城主志津次郎胤氏と謂われている。白井城主白井興胤の幼名竹若丸の叔父であり、後見人のはずが謀反追放し白井城主になった志津次郎胤氏です。興胤がその後両度を奪い返し子供の道案和尚が再度開山(14世紀後半)しました。昭和20年の下志津空襲で本堂が焼けましたが昭和59年再建。その年から初詣時にダルマを人遊ぶつお渡しし家内安全祈願。年末返却するうちに”ダルマ寺”と呼ばれるようになりました。</p>	<p>現在下志津開館のある場所は、かつては薬師寺がありました。数基の墓石が残っています、。建物の真中程には軒先から鰐口から布が出ています。普通なら鰐口を金属等の鐘で叩くのですが。音が鳴るのでしょうか？更にガラス越しに除くと薬師如来が拝めます。まだまだこの地区は信心深い人が多いのですね。</p>	<p>少し行くと台地から降りる薄暗い坂があります。この坂を仮称薬師寺坂としました。50m程 約7度</p>
			

65	66	67	68
旧道沿いの天満宮か？	薬師寺奇妙井戸跡	のんびりした下志津	樹下の小さな春日神社
			
<p>薬師寺坂の手前の佐倉企業社の左側の竹藪の旧道を進むと、間もなく左側に小さな社が見られます。はっきり分かりませんが天満宮か。その後ろに弘法大師と見られる石像もあります。この竹藪の道も途中で二股に分かれますが共に台地の下に抜ける旧道です。</p>	<p>辺田道に出ますが少し水道道路寄りの右側に薬師寺奇妙井戸跡と刻字された碑文があります。昭和61年5月造立ですが、薬師寺に伝わるお話が伝わっています。この碑文付近清らかな湧が出る井戸がありました。井戸にお薬師様の姿が見られるようになり、村人は非常に有難がり薬師様を引き揚げお堂を建ててそこに祀ったそうです。奇妙な井戸、有難い井戸と称しました、井戸の水は目の悪い人がこの水で目を洗うと治るという事で多くの人が水を汲みに来たり願を掛けたりしたそうです。昭和20年の空襲で薬師造は焼失。昭和62年会館改修時安置されました。</p>	<p>下志津地区の一部ではありますがこの一角はのんびりした昔ながらの風情のある場所です。早朝は靄も出ればなおさらです。是非散歩いただければと思います。</p>	<p>テニス場への畑道を行くと左手に大きな木があり、その裏側に社があります。春日神社が分祀されたものです。</p>
		 <p>民家の塀の上にはいました。何を見ているのでしょうか</p>	

69	70	71	
坂 (仮称 <small>オオニシザカ</small> 大西坂)	後ろ向きの不動明王	ユーカリ 駅南口	
			
<p>テニス場付近から旧辺田道に下りる坂で、小字から名をつけました。下志津の中心歩である御門作の西側の台地からこの小字名が出ております。かつてはコンビニの裏側経由で水道道路に出ました。</p>	<p>さてコンビニ裏は下志津への辺田道とテニス場方面の大西坂と旧谷津経由法恩寺方面への旧道の坂道があり、この三つがぶつかる地点に道路に背を向けて不動明王があります。何故道路に背を向けているのか？何故ここに不動明王の石仏があるのか分かりません。</p>	<p>水道道路から駅前方面に帰ってきました。駅の南側開発は平成に入ってからで、かつては和洋女子大の広大な敷地があったり（その後等価交換で現在地に移転。空地（上座通山地区他）は南ユーカリが丘等として住宅街に変貌してきました。</p>	 <p>ここから今回ルートはずれの掛け番を追加します</p>
	 <p>旧今東光邸の伏見追分道標レプリカ</p>		 <p>水田に咲いたオモダカの花。家紋によく使われます</p>

掛番1

上座貝塚



上座貝塚の正面側です。昭和32年に住居跡2軒、炉穴7基や縄文早期の土器が発見されました。手繰川支流が複雑に入り組んだ谷津と台地が続き、後側は京成電鉄の軌道で分断されました。地点貝塚でカキ、ハイガイを主体とする海水産貝類です。上座一帯は貝層が多数見られます。「古くからの香取の海からの貝なのでしょう。当然県指定文化財です。今でもこの貝には貝が地表にあちこち見受けられます」



掛番2

殖産住宅内の水天宮



殖産住宅の一番西側にある弁財天です。江戸末期からあるようですが、此処も手繰川の入り組んだ支流の谷津になるのでしょうか



かぼちやの花

掛番3

馬に乗った馬頭観音



所謂馬乗り馬頭観音です。千葉県のみで見られる馬頭観音の一つで、香取市他東総の一面2臂の物と市原・木更津付近の3面多臂の物に大きく分かれていて、佐倉市は東総の部類に属するが市内では之1基。非常に貴重なものです。馬乗り馬頭観音のみを専門に研究調査されている方もおられる程。千葉県には多くの牧や鷹狩場でもあった事も千葉県に限られた馬頭観音になったのでしょうか。勿論江戸時代の交通手段、運搬手段の一つとして馬が使われた事によるのも一因であるが、全国で262基、内千葉県が242基見つかっています。



掛番4

手繰不動尊1



かつて井野覚大塚裏にあった僧侶の墓石(現在親族という石川さんが間違って千手院に移転。墓石の表面も削って)には「法性寺」と刻字。輪性寺と謂われる方もおられますが)不動堂が荒れまくっています。現在の管理寺は旧吉田村のお寺さんですが、一度簡単なお堂をつくれないうか或いはクラウド方式で相談したいものです。これ以上荒れるのは見過ごせません。



掛番5	掛番6	掛番7	掛番8
手繰不動尊2	手繰不動尊境内の馬頭観音群	勝智院 1	勝智院 醤油塚
			
<p>堂の中の不動明王。かつては御簾に明治42年お墨書きされたものがありました。御簾も無くなり傷んだ不動明王が見られます。左側は聖観音座像。これまた臂下も無くなり残念。年代も古くなく、価値もないでしょうが、せめてこのままでよから保存し、せめてお参り出来る程度にお堂の中に納めたいものです。50万程度あれば簡単なお堂が出来るはず！資金集めの方法等考えねば？</p>	<p>境内お桶の木の太木も令和元年春に伐採。西南端いは14基の馬頭観音と内1基は道標を兼ねたものです。土台には上座区運送連と刻字。明治42年の造立で14基の一番後ろの一番大きなものです。これは、成田街道から上座本村に入り入口の三角地にあったものです。</p>	<p>元は江東区大島じありましたが、道路拡張等で昭和41年現在地に移転。住職さんが若くして亡くなったり、娘さんが住職をされたり、現在は男性住職が。慶長5年（1596）創建、榮駿（えいそう）が開山しました。真言宗智山派の寺院です。</p>	<p>現在の境内左端には江東区界隈の醤油製造メーカー達の醤油塚があります。忘れがちになりますが是非お立ち寄りください。</p>
			
<p>烏瓜の花。綺麗ですが朝には萎みます</p>			

掛番9	掛番10		
南方熊野神社	北方熊野神社近くの道祖神		
			
<p>上座の熊野神社には北方位熊野神社と南方位熊野神社があります。2本の楠の大木があります。北方位は旧名主川村家、南方位の熊野神社は中郷家の屋敷守でしたが現在は公開。なお中郷家は政治家金丸信等自民党の大物が来られたようです。</p>	<p>北方熊野神社の道路を挟んだ反対側を草をかき分けて下ってすぐ右側奥に数基の道祖神があります。</p>		<p>まだまだ元気で頑張れます！！一緒に仲間づくり！</p>
		<p>一緒に外に出て運動をしましょう。外は気持ちいいですよ！お友達と一緒に！！</p>	